

令和元年度第3回定例会

日 時： 令和元年6月28日（金）午後2時30分から午後4時55分

場 所： 図書館本館 講座室

出席者： （図書館協議会委員）会長、副会長、委員4名

欠席者 委員1名

（事務局）図書館長、図書館本館整備担当課長、企画運営担当主査2名、サービス係長、子ども読書支援係長、地域資料係長、総務係長、担当職員3名

---

会長 本日は委員1名から欠席の連絡が入っている。委員6名が出席のため、多摩市図書館協議会規則第4条により令和元年度多摩市図書館協議会第3回定例会を開催する。事務局より配付資料の確認をお願いする。

事務局、図書館長より配付資料の確認。

会長 議題1、平成30年度多摩市立図書館事業計画の評価について、事務局より説明をお願いする。

図書館長 本日の資料として、事前に資料3-1-1平成30年度多摩市立図書館事業評価【外部評価】（案）を送付している。この資料は前回の図書館協議会でのご意見をまとめたものである。資料を見て更に意見があれば事務局に連絡をと伝えた結果として、何人かの委員から意見をいただいた。その意見を追加したものが、資料3-1-3平成30年度多摩市立図書館事業評価【外部評価】（案）R1. 6. 27現在である。

本日は外部評価をまとめ、項目ごとに評価A, B, Cいずれかに決定いただきたい。また各項目の評価では、前回とその後いただいたご意見を外部評価のコメントとしてどのような形で纏めるかを協議いただきたい。

会長 前回の議論を踏まえ事務局で記録をとり、それを整理したうえで改めて6月27日現在の外部評価（案）が出ている。図書館協議会からの評価・意見を書く欄には全体の評価を記すわけだが、それに対するコメントは箇条書にしたいと思うがよいか。（委員了承）

評価欄について前回資料の3-1-1では疑問形となっているものがあり、評価として相応しくないため、資料3-1-3のような表現にした。またその後、各委員からいただいた意見も記載した。

一つの項目に複数の意見がまたがっている場合は調整をしながら意見を集約したい。それ以外の部分、例えば項目を追加するか否かや表現などはここで議論し、評価を確定させたいと考えている。

私が読み上げながら各委員からのご意見をいただきたい。

一つ目の項目は、「図書館システムの更新は、それにより、図書館利用者サー

---

ビスの向上がはかられたものの、貸出点数等の増加という期待した通りの結果には繋がらなかった。しかし近年の貸出点数等の減少傾向は多摩市立図書館だけでなく、社会的変化等にもより、全国市区部の公立図書館に共通して見られる現象であり、むしろたとえば人口当たりの貸出点数では、多摩市立図書館が全国市区部の公立図書館を大きく凌駕している。こうした人口当たりの貸出点数等が一般的に漸減傾向にあることに鑑み、多摩市立図書館は図書館システム面の取組みやその新機能についての案内の充実だけではなく、たとえばイベントの実施などにより利用していない市民へ働きかけ等幅広い取組みが今求められているのだと思う」である。

このシステム更新で期待していた効果が得られなかったということに対して、二つの表現が記述されている。私の記述は当初のものを若干修正しただけであったが、委員の提案の方がより現状も踏まえつつ、多摩市における取組みも評価し、一方でこういうことをした方が良いのではないかというような枠組になっている。こちらを中心に若干追加修正を加えながら、協議会の意見にしてはどうかと思うが、みなさんの意見はいかがか。

副会長

次の段落も貸出者数の減少傾向は多摩市だけでなく、社会的な変化もあるというところも重なっている。イベントの実施などということも書かれているが、ここは会長がレファレンスサービスの充実ということを書かれている。これはとても大事なことだと思う。多摩市は大人向けのイベントは比較的他市の図書館に比べて少ない印象がある。それはこれからもやってもらいたい、しかし貸出の基本である市民の多様な要求にレファレンスで応えていく、これこそ大事なことであり、これを上の文章に足していくという形で一つに纏められないだろうか。

会長

あと一つ気になる点は、委員案の「図書館システム面の取組みやその新機能についての案内の充実だけではなく」という箇所である。今回は案内を充実させたが十分にできていないかもしれない、といった評価であったように思う。この点は、少し表現を変えるとよりの確になるのではないか。最終的な文面までは本日の協議会で決められないので、私が案を作り事務局に提出後、各委員にも再度確認いただき、まとめたと思う。委員からのご意見とその他の意見を一つにして、評価コメントにするという形で進めてよいか。(委員了承)

次に「貸出や予約が減少しているなかで相談受付件数が伸びている要因として、職員の意識が変わったと報告があったが、このほかに、利用者が相談することにより借りたい本を明確にでき、探せた結果とも言えるのではないか」と若干追加をした。またこの部分について委員から「地域や市民の日常生活面の課題解決を支援する機能も求められているという意味で、レファレンスサービスは重要であるため、平成30年度に実施された相談内容の記録方式の改善例のように、今後もその質的改善に適宜留意していくことが必要である」という意見があった。この二つも述べていることは重なるが、視点が異なるので二つを合わせて図

---

書館協議会の意見にまとめることでいかがか。

図書館長

委員からのご意見で、「平成30年度に実施された相談内容記録方式の改善例のように、今後もその質的改善に適宜留意していくことが必要である」と書いていただいているが、前回の図書館協議会での説明が不足していた。相談内容の記録の仕方については、平成23年度からレファレンスでの問い合わせはすべて記録するように改善しているので、この表現は事実と異なっている。

この部分は相談内容の改善とは関係なく、相談の受付件数は伸びている。

会長

23年度に記録方式を改善したのちも相談件数が伸び続けていることに対するのが今回の評価である。例えば、「レファレンスサービスは重要であることを認識し、今後もその質的改善に適宜留意していくことが必要だ」といった表現を考えるので、それを見て最終的にご判断いただく。

この部分の評価については幅広い内容を扱っているため、追加の意見もいくつか出されている。私からは、「図書館に来館し、職員に尋ねれば丁寧に案内をしてもらえるが、子どもの数が減少している現状を考慮すると、図書館を利用してもらうためには来館していない利用者に働きかける工夫も必要である」。基礎的活動に係る事業でこうした話が出てきたので付け加えた。また、委員からは前回、「目標や取組み内容をより具体的にしたほうが、取り組みやすく評価もしやすかったのではないか」という意見があった。評価をするということ、あるいは計画を実行するという意味においても、より具体的かつ小さな目標を用意することが大切なのではないかとこの意見もあった。この二つについて皆さんのご意見はいかがか。

委員

外部評価を行う時、目標が図書システムの更新により一人当たりの貸出件数を増やしたいなど、具体的にっていると評価がしやすい。目標が漠然としていてこの項目は評価が難しかった。前年度より数値を上げるなど具体的にあったほうが、評価がしやすいのではと思った。今回の評価ということではなく、次回の評価に向けて検討しても良いのではないか。

会長

評価のために計画をたてるのではなく、その計画を実行することそのものが大切である。計画をたてる段階で明確な目標をたてることが図書館にとっての仕事のやりやすさや、目標を達成するまでのプロセスのたてやすさに繋がり、図書館にとっても大切なことである。その意味でこのご意見はとても重要であり、追加したほうが良いのではないかと考える。問題なければこの形で残し、今後の図書館の活動や私たちの評価に活かしていくというコメント・意見として示しておきたい。

委員

30年度の目標事業、1基礎的活動に係る事業の評価が「C」であり、取組みどおり実施できなかったというコメントがある。目標に対して評価取組みどおり実施できなかった。本当にこの事業は、取組みどおり実施できなかったことになるのか。貸出数などの数値は下がっているが、図書館は力を合わせ工夫して少し

---

でも上げようとしてきた。しかし目標どおりにならなかった。それが取組みどおりに実施できなかったという表現になってしまうのか。

会長           ご指摘のところは、あくまで図書館の自己評価が「C」ということである。私たちは、図書館が自己評価「C」だからといって、それに引きずられることなく図書館からいただいた説明や資料に基づいて、私たちなりの評価を出せば良いのではないか。

委員           我々なりの評価を出せば良いと理解する。

副会長        例えば一人当たりの貸出冊数を目標にして、今の2.1から2.5を目指すみたいなことは非常に分りやすいと思う。けれどこの一人当たりの貸出冊数を上げるのは大変な状況である。そういう現実もある中で、しかし数字で表されていると確かに分りやすいと思う。行政評価というものが行政全体で行なわれている。その中には確か図書館についての行政評価の一つの指標として、一人当たりの貸出冊数がでている。それについて達成できたとかできないとかやっていると思う。ここには全くそのことは触れていないが、図書館ではどう考えているのか。

図書館長     お話されているのは第5次総合計画の第2期の基本計画のことだと思う。その中で取組みの指標として数値を持ってきている。図書館は指標として一人当たりの貸出冊数を出しているが、どのような施策でその結果の数値として表した時に一人当たりの貸出冊数を載せている。その施策自体は、図書館のことだけではない。指標として目安を数値で表せるもの、一人当たりの貸出冊数が分りやすいと思ひ、その数値を取り上げている。それと今の図書館の事業計画とは関連付けはしていない。上位計画として基本計画はあるが、関連付けるかの検討はしていない。

副会長        基本計画の中でもそういう取扱いなのだと思えば、そこでも数値的なことを出していくのは難しいのではと思ひ。もう一つ例えば、どれだけ利用されているかということを示す来館者数というデータの取り方がある。多摩市には来館者数を数える装置がないし、調査もしてこなかった。これからはそのようなデータも必要になるかもしれない。本を借りるだけではなく、新聞を読んだり、雑誌を読んだりするだけで帰って行く人も最近多くいる。そのような利用者をどう把握するか。

会長           来年度以降の計画を立てる時には、目標や取組み内容をより具体的に、あるいは具体的かつ小さな目標を用意することを念頭に置きながら立てていただきたい。

では、この項目について評価したい。「C」というのは低いと思ひが、皆さんのご意見をいただきたい。

委員           今回の基本的な大きな目標は、図書館システムの更新を行うこと。これは行った。付随的に広報活動をやったが、その結果期待していたほどの数値が上がらなかったということ。「C」の評価をした。更新したが結果的に影響がでなかった。

---

システム更新自体に悪い影響が出ていれば「C」でもと思うが、更新は完了して広報も行った。結果、思ったより数字が上がらなかったということは、取組みはしっかり実施はしたが、成果が得られなかったということだと思う。私は「C」でなくても良いと思っている。

会長                   私もそう思う。他の委員はどうか。

副会長               私は「B」で良いと思う。

委員                   私も「B」で良い。

委員                   私も「B」で良いと思う。

委員                   貸出点数、貸出者数には、学校の調べ学習の数字は入っているのか。

図書館長           個人の貸出点数と貸出者数だけである。学校の団体貸出は別に統計を取っている。

委員                   学校でも追加で、学校図書室に無いものをこちらでお願いをして取り寄せている。それが入っていると増える可能性がある。

会長                   今回は提示されているデータで評価することになるので、学校図書室の分は来年度以降の評価の中で検討いただきたい。30年度の評価では、多くの委員から「B」という評価をいただいている。この評価で意見をまとめたいと思う。(委員了承)

では「B」の評価としたい。

会長                   次に「多摩市読書活動振興計画に基づく重点的事業」に進む。まず「基本目標(1)だれもが使える図書館」の中で示された取組みは「乳幼児を連れた保護者への配慮」、「若年世代の利用促進」、「多文化サービスの充実」である。これに対する評価・意見は、私から「取り組むべき複数の課題を認識し、不十分な点もまだあるが、その解決に向けた努力と成果が一定程度見られる。」、委員からは「取組み全体としては概ね評価できる。」という評価が出ている。いずれも同様の内容なので、「不十分な点もあるけれども取組み全体としては概ね評価できる。」、あるいは「一定程度の成果が見られる。」というような形でまとめたいと思う。

4ページ目、乳幼児のベビーカーについて、私が追加をしたものと、委員からのご意見がある。「乳幼児を連れた保護者への配慮に関して、声を出しやすい環境作りといった施設面以外にも、おはなしコーナーにベビーカーを置く場所がない、置き場所が分りにくいといったことがあげられている。施設面での課題解決にも取り組んでもらいたいが、少しの工夫によって解決できることもある。そうした普段から改善できる小さな目標を立てて実行してはどうか。」と、「乳幼児を連れた保護者に配慮した施設の使い易さの向上施策は、工夫して環境整備には努めたものの、施設変更面での困難性から具体的提案が不可能であったとのことだが、ソフト面も含め少しずつでも継続的な検討を進めていくといいと思う。」という2つである。私のほうは具体的に、会議の中で出てきた意見を明確に示した。一方で委員は、まとめた形での表現になっている。

---

より具体的に意見を示したほうが、少しずつでも改善していくべきということ  
を伝えやすいと感じる。よろしければ、二つを一つの文章に工夫してまとめたい。

続いての若年世代の話題である。「若年世代の参加型イベントについて、今年  
度は検討段階ということであるが、実施に向けた道筋も併せて考えるべきであ  
る。」というの私が追加したものである。委員からは、「若年世代の利用促進に  
ついては、ホームページの情報充実という課題を残すものの、中高生が図書館に  
親しみを持つイベントや事業の準備が進められるとともに、例年実施している中  
学生職場体験プログラムの中にも受け入れた中学生のために図書館の便利な使  
い方についての啓発内容を織り込んだ。」という案が示され、これは図書館側か  
らの説明を織り込んでいる。前回の説明では実施したのもあれば、検討にとど  
まったものもあるとのことであった。私がここで示したかったのは、検討したも  
のをどう次に繋げていくのかということまで含めての検討なのではないかとい  
うことである。この部分について委員が書いてくださったような具体的なものを  
明示するため、二つの提案をまとめたい。

委員 今子どもたちはスマホのゲームをするため長い時間を費やしている。電車の中  
では、お母さんが子どもにスマホを渡して泣き止むようなだめている。低年齢層  
の図書離れを少しでも改善させるなら、保育園や幼稚園に行き読み聞かせをす  
る。小さな子どもがいる家庭に小さな子ども向けの本を郵送する。若しくは、各  
学校図書館の使い方を教え、そこに無い本は図書館で借りられることを伝える。  
学校に出向いて行き、子どもたちにゲームではなく、本はこのように借りるこ  
とができる。このアナウンスをしていくと改善されていくと考える。

会長 今回新たな意見をいただいた。具体的にこのようなことを取り組んだらどうか  
という意見は入れて良いと思う。図書館では学校に出向いて行って、図書館利用  
の案内を行うなどの取り組みはあったのか。

図書館長 図書館では、市内の小学校2年生に各学校から来館してもらい、職員が本の利  
用者カードの作り方や本の借り方などの話をし、地域の図書館を利用してもら  
う取り組みをしている。各学校には学校図書館司書がいる。図書館職員も学校図  
書館司書と連携して、学校図書館に出向くという事業も今後検討していきたい。

会長 小学校2年生に図書館に来てもらうという活動の実施率は100パーセント  
か。

図書館長 100パーセントです。

委員 その事業は素晴らしいと思う。子どもたちに来てもらい、図書館はこういうふ  
うに利用するのだよということを、2年生ぐらいの小さい子に教えることはとて  
も良い事で、そのような取り組みを増やしていただきたい。

会長 その部分を評価するとともに、一方でもっと積極的に学校にも関わってもらい  
たいという要望ということではいか。

委員 そうです。

図書館長	昨年度の図書館訪問の実績は全校ではなく15校でした。訪問する図書館は本館だけでなく、各地域の図書館に来てもらっている。
会長	<p>若年世代に対するサービスの評価できる点と、もう少しこうしたこともやってみたら良いのではないかという意見を追加して協議会の意見としてまとめていきたい。</p> <p>三つ目の項目は若年世代のところにも関連するが、「職場体験を数多く受け入れており、地域の児童・生徒の教育に積極的に取り組んでいる点は、高く評価できる。業務をこなしながらの受け入れは大変であろうが、引き続き今後も取り組んでもらいたい。」である。委員から「時代的にニーズの高い外国語学習資料の収集強化等多文化サービスの充実という課題については、関連諸組織との連携のもとに着実に推進した。」という評価をいただいている。この点を追加することについて何か意見はあるか。</p>
図書館長	実施報告に記載しているが、ここは積極的に取り組み、日本語学習図書を受入で71冊、外国語図書を受入で170冊、外国語学習図書を受入で202冊と、積極的に図書の購入を進めたので、評価いただけるとありがたい。
会長	<p>ご意見を追加して評価したいと思う。</p> <p>では評価に移りたい。図書館の評価は「B」であるが、図書館協議会の評価としてはいかがか。</p>
委員	<p>取り組み2は若年世代の利用を促進するための取り組みを実施する。取り組み3は蔵書を増やして充実につなげる。この二つは概ね達成されているものだと思う。問題は取り組み1をどう見るか。手を付けていないということで、3項目のうち1項目でも達成されていなければAはとれないのか。あるいは3分の2達成していれば良いのか。「A」か「B」のどちらかだと思う。</p>
副会長	1の乳幼児を連れた保護者への配慮というところが、取り組もうと思ったけれども施設面の限界があってできなかった。目標を立てたけれどできなかったということなので「A」には届いていない。例えば1館でも実現していれば良かったと思うが。
会長	8割から9割くらい達成できているというところまでは至っていない。
副会長	多文化サービスの取り組みは素晴らしいと思うが、まだ初めの一歩であり、点から面に広がるのが今後とても重要である。
会長	<p>ご意見をまとめると「B」となるが、よいか。(委員了承)</p> <p>5ページ目に移る。「基本目標(2)子どもへのサービスの充実」で、第三次子どもの読書活動推進計画の推進の部分に関わる場所である。図書館の自己評価は「A」であった。本協議会では、「継続して事業をおこない、新規の事業にも取り組んでいる。また計画を実行していくためのアクションプランを作成しブレイクダウンもできている。」とまとめたが、委員から「図書館、関係課、小・中学校が協力しての第三次子どもの読書活動推進計画のアクションプラン作成によ</p>

り、情報を共有しての具体的なスケジュールづくり、計画の着実な推進の基盤が整った。」という表現をいただいた。より具体的で分りやすくなったと思う。

副会長

第三次子どもの読書活動推進計画は庁内の会議、小・中学校の会議、市民ボランティア連絡会とその上部に推進連絡会がある組織でまわっている。30年度から名称が変わった市民ボランティア連絡会は、各団体から1名となり、これは団体を増やそうという意図があった訳であるが、ある意味整理されて会議が開かれるようになった。私はこの会議に出席していないので、出席されている方から聞いた話としてお伝えしたい。一次・二次・三次と子ども読書活動の推進に計画を立て、幅広く色々な方が関わって子どもの読書環境を豊かにするという体制作りができたことは大変評価している。今回アクションプランも作り、より具体的に目標を立て実施していこうという計画そのものは評価しているが、市民ボランティア連絡会に参加した方からの声は、一次・二次の計画を作っていく中で対等な立場で一緒に考え提案もし、イベントも相談しながらやってきた経過があった。しかし昨年から市民ボランティア連絡会の関わり方が委員から見ると少し後退したと言う評価を聞いている。30年度はそのような評価をしている。第三次子どもの読書活動推進計画の推進は取り組みのひとつではなく、これが全体を占めているものなので、それを評価すると私は「B」としたいと思う。今後に向けてもう少し対等に進めていただければ、ますます仕組みがうまくまわり発展していくのではないかという希望も持っている。自己評価は「A」であるが「B」と考える。

会長

「計画の着実な推進の基盤が整った。」という意見があるが、そうではないという意見であると理解した。市民ボランティア連絡会という新たな組織体制に変わったことで、ボランティアからの意見を盛り込むのが若干難しくなっているというご意見であり、これを入れたほうが良いのではないかということか。

副会長

そのような表現を入れていただければ、より分りやすくなると思う。

会長

その点について事務局から状況説明をお願いしたい。

図書館長

第三次子どもの読書活動推進計画については、取り組みを進めるに当り推進連絡会を立ち上げた。読書活動の推進をしっかりと着実に計画通りに進めて行く、そこを今回は重点を置いている。計画の進捗をこの連絡会で事務局が報告して、進捗の確認をしていただき、ご意見があればいただくという組織体として立ち上げている。以前は読書活動の推進に当って大きなイベントをしっかりと実施して、継続してイベントを行う中で子ども読書の活動推進も進めていったが、今後の着実な推進を目指し連絡会を設置している。その部分で連絡会の位置付けが変わっている。各連絡会でもそういった体制としたいという説明をしているのでご理解いただきたい。連絡会の中で、委員の皆さまのご意見を事務局が受け止めていないのではないかというご意見もいただいた。そのように連絡会を進めてはいない。今後はその辺りは意識しながら会議は進めて行きたい。

- 
- 会長 第二次から第三次が変わるときに体制が変わったが、図書館側のその意図は、進捗状況をきちんと説明し活動を着実に進めていくことを大切にしたいということであった。他方、推進連絡会に今まで参加していた人からは、そのようには見えなかったということが分かったので、その点についての事実と意見という形で記載したい。「計画の着実な推進の基盤が整った。」という箇所については、実施したことに対する評価なので、この表現で問題ないであろう。
- 「プレママ、プレパパは取り組みとしてはよかったが、PR不足や展開場所に課題があり、参加者が少なかった。良い本を妊娠時期から紹介することは大切であるので、対象者がいる場に行く等を検討してもらいたい。今後の取り組みに期待したい。」というのが前回の私たちの意見であった。これについて、「おはなし会等のイベントは各館で工夫して、多様な内容で催し、それぞれ多大な成果を収めている。」という委員からの追加、「良い本を妊娠時期から紹介することは大切なことなので、参加者の少なかったプレママ、プレパパを対象にした取り組みの今後について期待したい。」のように成果を収めていることを記した上で、プレママ、プレパパは残念ながら参加者が少なかったことに触れ、もう少し工夫してほしいという評価としてまとめたい。
- 次に「児童選書会議について、地域図書館から提案をしやすいように様式を変更したとのことであるが、現場の状況を把握している地域図書館からの提案も選書に反映させてほしい。」というまとめをいただいたが、委員から「児童選書会議についても、現場の状況を把握している地域図書館の要望を吸い上げ易いように提案様式を改善したことを評価する。」という表現で印象がだいぶ変わっている。評価に重きを置くのか、評価もするがこのような改善もしてほしい、という提案にも重点を置くのかによって、前者と後者とで随分印象が変わる文章である。その点いかがか。
- 副会長 図書館として児童書の選書体制の改善を行った。本館、拠点館の3館の担当者で選書している状況であり、地域館から要望は書式を整えたペーパーで吸い上げている。そのような形で充分であると考えているのか。
- 図書館長 児童書の選書会議は、本館にある子ども読書支援係が中心となり選書会議を開催する。以前の係の無い時代から比べるとしっかりと体制になっている。拠点館から職員が毎週来て選書を行い、各地域館からは児童選書会議に対して提案する様式を整え、提案が上がれば選書会議で検討する。このような体制を整えているので、今後もこの体制でいきたいと思う。地域館からも毎週職員が来て選書会議に参加することも一つの方法ではあるが、現実的には毎週地域館職員が選書会議に出席するという事は合理的ではない。提案体制が整っているので、このやり方でしっかりと進めていきたい。
- 委員 私は現場を知っている職員から提案を受けるという体制は非常に良いことだと思った。

- 会長 そのことを高く評価し重点を置いたという意見である。「選書会議についての改善」で、拠点館からは職員が参加をする、地域図書館からは意見を提出するための様式を設け、吸い上げる方法を取ったことを改善と言っている。その点で一歩、二歩前進しているという意味では、委員が書かれたような評価をしても良いのではと思う。図書館のこの改善は1年目なのか。
- 図書館長 様式変更は昨年度。新しいものの購入、買い替え、廃棄についても吸い上げる方法とした。
- 会長 様式を整えるなどいくつかの改善を試みたことは評価できる。今後とも取組みを続けて欲しいという表現にしたいと思う。
- 副会長 もう少しレベルを上げて欲しいという気持ちはある。しかし30年度の評価としてはこれで良いと思う。今後中央図書館ができていく中で児童書の選書についてどのようにしていくのか、私は課題があると思っている。地域館の声をどのように吸い上げるか。提案書的なものだけで良いのか。やはり各館の児童担当が参加することで選書会議のレベルが上がるとしている。調布市や町田市など他市ではそのような会議をしていると聞いているので、今後の提案ということで良いと思う。
- 会長 改善をしたら、そのやり方が適切なのかということも評価していただきたい。その点は含み置きいただき、平成30年度の評価はそのような表現にしたいと思う。図書館自己評価は「A」であるが、皆さんはいかがか。
- 委員 子どもの読書活動推進計画の重要性とその環境整備が整ったことは非常に大きいことである。それが円滑に実現したということで「A」で良いと思う。
- 会長 他の委員はいかがか。
- 委員 基本目標(2)の第三次子どもの読書活動推進計画の重点施策である「支援の必要な子どもたちへの取り組みとしてLLブックなどの資料の収集に取り組むほか、子どもへのサービスの充実に取り組む。」並列なところもあり、細かな目標もあり、目標の書き方に問題があるのだと思う。この文言では取り組むだけで成果を求めている。成果は取り組みを求めている。目標に対してどうかという評価すれば私は「A」で構わないと思う。目標の立て方に少し問題があるのでは。
- 会長 冒頭で委員からも同様の意見があったが、評価は「A」でよいか。(委員了承)
- 続いて7ページ目の「基本目標(3)市民や地域に役立つ図書館」である。図書館の自己評価は「A」で、8ページ目の裏面に私たちの意見が掲載されている。一つ目は「取り組むべき課題を認識し、その解決に向けた取り組みを着実に実施してきたことが読み取れるが、「市民や地域に役立つ」という目標に沿った事項となっているかが疑問である。目標の立て方について見直す必要がある。」二つ目は、前回意見が出てきたところとほぼ変わらない。三つ目の「地域で読書活動をしている団体の取り組みへの支援といったように広げると対象も広がるのでは

---

ないか。」であるが、私の方で「現在の団体へのサービスでは、その対象を学童、児童館としているとのことであるが、地域で読書活動をしている団体などにも支援対象を広げるとよいのではないか。」と提案した。これは本会で意見が出ていたものを追加した。委員からの意見は「次年度からの学童クラブを対象にした貸出実施の決定等読書活動に取り組む団体に対する支援、大妻女子大学との共催、パルテノン多摩、地域資料係との連携による読書活動に関心を高めるための事業の実施、高齢者を対象にしたおはなし会の実施等、地域の各世代の人たちを対象にした、各館ごとの独自の工夫と視点にもとづいた様々な取組みが活発に行われ、大いに成果を上げたことは評価できる。」となっている。委員は実施したことに対して評価を明確に示している。他方、前回の会議ではもっと支援対象を広げても良いのではないかというご意見もあったので、私がそのように表現を直した。委員の意見に私の意見をつなげ、評価と今後の意見という形でまとめられると思う。最後の科学本カフェに関する話題は「関戸図書館で開催されている科学本カフェは、地域の方の支援を受けて図書館が主催しているとのことである。このように読書会などのイベントを図書館主催で行うだけでなく、地域の方の力を借りて実施することも検討してほしい。」という表現にした。これ以外に皆さんからご意見、追加してほしいことがあれば伺いたい。

前回の評価は「A」であった。今回の意見を見直して再検討としていたが「A」で良いか。(委員了承)

続いて、「基本目標(4)しらべるを支え、つながる図書館」には2つの取り組み目標があり、自己評価は「A」である。図書館協議会の意見は、「課題として認識し、その解決に向け取り組んでいることは窺えるが、他方で検討段階のものも多い」が1つである。また、前回の説明を受け「パスファインダーを継続的に作成していること、これを活用したサービスも展開していることは評価できる」を追加した。委員からは、「市役所各課と連携して、各地域課題に関わる企画展示や講演に、図書展示等を通じて協力し、それらを貸出サービスの拡大に繋げるとともに、その取組みを関連資料の購入に反映することで、一層の市民への情報提供をはかったことを評価する」という意見が寄せられた。この2つを追加してもよいか。(委員了承)

つづく「デジタル化は予算化も必要なので、何をデジタル化するのか計画的に進めていく必要がある」であるが、このことに対して、私と委員から修正案が提示された。私からは「デジタル化には予算も必要となる。そのため、電子資料の導入はもちろん、地域資料のデジタル化を含め、なにをどのように電子的に提供していくのか、優先順位をつけながら、計画的に進めていく必要がある」を、委員からは、「デジタル資料の提供については、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスをはじめとして、それらの導入に着実に取組み、同サービスの提供が開始することとなった。今後、電子書籍サービスや地域資料のデジタル化への検

討が進められることを大いに期待している」をそれぞれ示した。評価・希望という視点が委員から示された。一方、委員からもご指摘があった予算の問題も重要である。図書館で持っているものをデジタル化するにも予算が必要であるし、電子書籍を購入するにも費用が必要である。何をどのようにしていくか計画的にやらなくてはならない。この2つを1つにまとめて表現したいと思う。

副会長

検討していることはとても重要である。市民は今どうなっているのかを知りたいと思う。時々状況説明をしていただけるとありがたいと思う。

会長

サービス開始時の広報だけでなく、継続的に情報発信を心掛けてほしいという趣旨の意見である。これも重要だと思うので追加したい。

前回は、検討段階のものも多く、評価をAとBの中間とまとめたがいかがか。

目標は立て、その目標を達成した取り組みを着実に実行してきたという点では「A」でも良いのではないか。

委員

成果が少なく課題が残ったわけではない。

会長

AとBの境が難しい。

委員

この評価基準でBは少し辛い。

会長

「A」でよろしいか。(委員了承)

最後の「基本目標(5)弾力的な管理・運営」に関して、取り組み目標は全部で7項目である。裏面の12ページ、図書館の自己評価が「A」で、前回私たちも基本的には「A」とした。文言の修正があるので、そこを読み上げると同時に追加の部分も確認したい。

1つ目は「図書館が発展するために取り組むべき課題を認識し、着実に取り組みを進めていることが確認できる。他方、取り組みが多岐にわたるためか、不十分な点もみられる。」、2つ目は「システムに関連して、子ども向けOPAC講習会は参加人数が少なかったとのことであるが、周知不足や方法に問題があったものと考えられる。他の市民への広報等を含め、今後の展開に期待したい。」、3つ目は「職員体制について方向性を示したとあるが、図書館からの説明を向う限り、あいまいな部分が認められる。今後の課題ではないか。」、4つ目は「取り組み項目も多く、1つひとつ重要な活動が多いなかで、全てを完璧にやることは難しい。そのような中で、通常の図書館サービスに大きな影響を与えることなく遂行したことは評価できる。」更に2つ追加で「新本館に関しては、平成30年8月「多摩市立図書館本館再整備計画」が策定され、それを据えての職員体制の見直しも進められる等新本館再整備に向けた取り組みが着実に推進されている」、「事業評価については、平成30年度事業計画から自己評価、外部評価を行い、次年度事業計画へ反映させるシステムの導入を決定し、現在、利用者サービスの向上と事業の効果的、効率的運営等を目指して、評価の実施段階に入っていることは評価できる」となっている。この2つは重要な取り組みなので追加したいと思う。

取り組み項目も多く、図書館活動を遅滞なくやり遂げている点も含めて評価は

	「A」でよいのではと前回意見交換をしたが、追加の意見がなければ評価を行いたい。前は「A」にしたがいかか。
副会長	職員体制の見直し以外は、本館の機能強化の計画、基本構想、基本計画を市民参加型・学習型基本計画の検討委員会と、傍聴者も多く資料の配付など画期的なやり方であった。本当にダブルAと評価したいと思う。同時に職員体制の見直しは目標に立て、同時進行していかなければ3年後の開館に間に合わないと思っている。しかし方向性は示したとなっていて、直営を基本とした運営体制で職員も育成していくという道筋は示されているが、具体的な中身が示されていない。これから検討ということに不安を感じる。
委員	色々な課題を一応達成している、進めているという点で評価としては「A」としたい。
会長	職員体制の見直しについて、「取り組みの13職員体制の見直し」で、運営体制の整備と職員育成の方向性を示したとある。その点について副会長からご意見があったが、図書館として30年度の取り組みをどう考えているのか。
図書館長	基本計画の中で図書館の基幹部分は直営とし、本館を中心としたネットワークを構築する。現在の親子館方式での運営を、新本館を中心とした運営にしていく。これは大きな方向性の決定です。今後どのように進めていくかは大きな課題である。30年度はそこまで決めさせていただき、次年度以降検討を進めていきたいと思っている。
会長	ではそのような方向性も示し、これからの課題も見えてきたということで、評価は「A」として今後の活動に期待したいということでもよろしいか。(委員了承) 今日の評価を文章にし、整えてから委員の皆さんにお示ししたい。 次に議題の2、多摩市立図書館本館再整備について事務局から説明をお願いしたい。
図書館本館整備担当課長	資料3-2-1、3-2-2、3-2-3の3つ用意した。3-2-1は6月8日に行った市民ワークショップの結果のまとめ。3-2-2は7月4日から基本設計に関する市民説明会を予定しており、その内容について事前にお示ししたいと思っている。市民説明会の資料とは若干異なるが、まとめた形の資料になっており、この資料について説明する。
企画運営担当主査	基本設計内容について説明する。 前回委員からご指摘いただいた人員体制の課題については、今後人員計画の中で検討していきたいと考えている。 副会長から市民活動室にキッチンがあると良いのではとのご意見。こちらは改装後のパルテノン多摩に設置予定があり、機能重複になるため図書館には作らないが、図書館には料理本も沢山揃えているので、利用してもらいながら側面的に支援できたらと考えている。会長からはパソコンの貸出、講習会ができるだけの台数の確保、ワークショップでのプログラミングやウェブ会議などの市民意見が

---

あった。1階の参考資料コーナーにオンラインデータベース専用のものを複数台入れ、2階のラーニングコモンズエリア付近にもインターネット用に複数台置きたいと考えている。それ以外にモバイル型でノートパソコン等を十数台用意し、講習会を実施時に市民活動室等で講座ができると良いと思っている。通常期は館内でAV資料の視聴用やインターネット用に貸出することも考えている。館内にはWi-Fiも併せて整備して対応していきたい。委員から「超高齢社会が進行する中、高齢者も含めて本館の再整備にあたっては図書館利用に障害のある人が館内を自由に移動でき円滑に利用できるような施設・設備面でどのような配慮・工夫がされているのか、また例えばどのような読書支援機器を設置する予定なのか」というバリアフリーと障がい者サービスに対するご意見をいただいた。バリアフリーに関しては、東京都福祉のまちづくり条例や多摩市福祉のまちづくり整備要綱に則った計画になり、館内は段差を極力なくし上下の移動はエレベーターの設備を設け円滑に移動できることに配慮する。またわかりやすいサイン・案内表示の計画、ゆったりとした通路幅・扉幅を確保して、多目的トイレも複数設ける。地下には思いやり駐車場を整備し、誰もが利用しやすい施設にしていきたい。視覚の障がいのある方には、カウンターまでのスロープ床の点状線状ブロックの敷設。エレベーターの音声案内設備。障がい者サービスの機能は、永山図書館からバックヤード機能を移し本館でもサービスを始めます。朗読室や録音室が1階にあり、拡大読書器や音声拡大読書器、読み上げ対応のパソコンやマルチメディアデバイスと言ったモバイル用のノートパソコンを貸し出すことで、館内どこでも視聴できるようにしたいと考えている。

会長

今の説明も含め意見交換したい。

現在の進捗状況と、図書館協議会を通じて私達が意見を出せる機会はあるのかを確認したい。

図書館本館  
整備担当課  
長

市民説明会を3回行う。主旨は図をお示し、ご意見をいただく。今回の図書館協議会においてもご意見をいただきたいと思います。7月末位までには確定をしたいと思っており、7月13日の市民説明会をもって、ご意見はある程度集約したいと思っている。

会長

次回の図書館協議会の予定はいつごろか。

図書館長

9月以降の予定。

会長

図書館協議会として意見を出せるのは今日が最後になる。詳細に説明いただいたので質問やご意見を述べていただき、こののちは例えばメールで意見を述べるということはできるか。

図書館本館  
整備担当課  
長

大丈夫です。

会長

ではそのつもりで意見交換を行いたい。

副会長

私は、ワークショップに3回出ている。今日は詳細な図面が出てきたが、以前配られたのはかなりラフな図面が3回目に初めて出てきた。そこで意見を出してほしいということだった。しかし、家に帰ってから図面を眺め、図書館建築の専門家の方の建築思想、新しいものを建てるのにあたりどういうところを見ていったらいいのかというお話を聞いたうえで考えた。時間をかけて作った基本計画れとの整合性が3回のワークショップの中では説明があまりなく、経過説明はあったが計画がどれだけ図面に反映されているかの説明があまりなかったと感じている。ワークショップで様々な意見がでるが、出た意見を市民同士あるいは設計者とやりとりをして、検証しながら進めていくという時間は十分でない。私たちは時間が不足していると感じている。これはワークショップの限界ではないかと思っている。今日のような詳細な設計図や断面図は公開されてない中での議論なので、イメージができにくいから意見を言いにくい。出された意見は箇条書きに示されている。こんな機能、こんな場所があってほしいということは沢山書かれているが、設計者の提案を検証しながら更に意見を言い合うという場面にはなっていない。私は進め方について危惧するところがある。建築家に聞いても、実施設計に入ると私たちが意見を言っても細かい変更はできないし、大きな変更は全くできない。今の基本設計の段階で意見を言うしかない。提案だが市民との意見交換は市民説明会がある。詳細な図面が出てきたところで、色々な意見を聞いた後に、さらにフィードバックしながらやり取りをする時間があれば市民委員検討会的なものを作って、図面を公開しながら継続してやり取りをしてほしい。また、基本構想や基本計画の時にヒアリングをした団体、学校、行政の関係部門があるが、同じようなことを今度は設計者が所管の事務方と一緒に設計図面を見せながら、もう一度ヒアリングして丁寧な説明、意見を求めて反映していくやり方を提案したい。私は図書館員の関りがとても重要だと思っている。実際にサービスをする現場の職員、管理部門だけでなく、その方たちが一緒にその場に参加し、市民の意見を聞きながら自分たちがどうサービスしていけば良いのかということイメージしていくことが良いと思う。基本設計の図面の色々な疑問、ラフな図面を見ながら私たちは言っているが、この点についても機会ができたらいいたい。

会長

現在、基本設計の策定を進めていくにあたり、その前提である基本計画とどう整合しているのかは、ワークショップに参加しているときには見えてこなかったというご意見がある。私もワークショップを見学していたが今日のような詳細なものはほとんどなく、その中で意見を述べよと言われても、言えることと言えないことがあるという不満というか危惧を覚える。副会長のお話を伺っていて感じたところである。詳細な図面を出したならば、説明会で質問を受け付けて終わりではなく、それがどう反映されたのかというやりとりがさらに必要なのではないかと副会長からご指摘について事務局として何かご意見はあるか。

図書館本館 ワークショップでの基本設計の考え方は、もともと市で建物を立てるときに、  
整備担当課 基本的にあまり市民に問うて意見を求めるということは今までできていなかった。  
長 今回の基本設計ワークショップはあまりやらない取り組みとして、私たちも試  
行錯誤しながらやってきたところがある。ただ、基本設計、実施設計を含めて今  
年度中にあげたいという思いで進めている中で、この3回「敷地を見よう」、「ど  
んなことがしたいか考えよう」、「図面と模型をみよう」、皆さんの意見を踏まえ  
ながら反映してきた結果だろうと思っている。そのような組み立てを私たちもし  
てきたつもりでいる。それを一つ一つ説明していく時間もなく、基本計画を全く  
知らない方々にもご理解いただけるような内容にしながら、ご意見をいただいた  
ことをできるだけ反映させようと苦労してやってきた結果、このような形になっ  
てしまったということはぜひご理解いただきたいと思う。ただ、基本設計が固ま  
ったので説明会をするわけではありません。基本設計の今までの到達点としてお  
示しするという市民説明会であり、途中段階でのお示しということもなかなかし  
ないことでもあります。この案がすべて最終確定になるとも正直思えないが、で  
きることでできないことはこれまでも市民のワークショップの中でも整理をして  
きたところでもあります。そのことを踏まえた中でご説明して、市民説明会の中  
でも意見をお伺いして真摯に取り組んでいきたいと思っている。

会長 ワorkshopでは、このようにしたい、あのようにしたいと理想に近いところ  
の意見を出していき、それを設計会社がある程度集約をしながら取り込んでい  
こうという姿勢だった。その次の段階では制約がある中でいかにそれを実現して  
いくのかという話になる。広げたものを今度は集約していく段階に少しずつ入っ  
ていく中で、説明会で詳細な図面が出たからこそ、さらに市民の方を含めて色々  
なご意見が出てくると思う。制約があり、それ故できないではなく、上手に市民  
の意見も受け取り、できないものはできないと回答すべきだと思う。そこは丁寧  
にやってほしい。図書館協議会の委員として副会長の意見も伺い感じたところ  
である。あらためて、ぜひ丁寧な進行をお願いしたい。

委員の皆さんから何かご意見があればお願いしたい。

副会長 委員は武蔵野プレイスに関わられた。色々な検討が行われた結果今の形になっ  
たのではないか。市民の意見聴取、市民とやり取りがあり財団方式になった。庁  
内でやり取りがあり、市民ともやり取りがあった中で、時間をかけたという印象  
を持っているが。

委員 武蔵野プレイスは成り立ちが少し特殊でした。土地の取得計画は昭和49年に  
さかのぼり、平成10年には市と議会が当該土地の利用計画を策定し、土地を取  
得した。

その利用計画を理論付けるために有識者の会議を行い、平成15年からはプロ  
ポーザルで決定した設計者に入ってもらい委員会を作った。その委員会の中でイ  
メージを作り、平成17年に基本設計を作った。その間市民はそれほど携わって

---

はない。委員会形式でやり、色々反対運動も起きたので何度かは説明会を行った。例えば設計をする前にどんな建物が良いですかという意見聴取など。恒常的な委員会を設けて市民とはやっていない。市民活動の機能をどうすべきか、という個々のワークショップなどは行った。特殊だったのは、武蔵野プレイスと鉄道を一体化した、それだけを専門に審議をする特別委員会を議会で作った。説明する相手は特別委員会の議員であり、議員が市民の意向を委員会で伝える。最終的には10年間ずっと特別委員会の中で毎月毎月長い時間議論をして、議員が市民からの意見などを伝えてくる。もう一つは、平成17年10月に基本設計ができたが、同じ月に市長選があり市長が変わった。新しい市長は、この建物の計画を縮小すべきだということ大きな公約の中の一つに入れて当選したという経過があり混乱した。ですから少し異例の経過をたどっている。一般的には基本設計を作ると形はそう動かない。うちは基本設計が全く違った形になった。異例の経過をたどったので、計画から建物ができるまでは参考にはできないと思う。

会長  
委員

委員のその経験を踏まえ、今までの多摩市の取り組みはいかがか。

このタイトなスケジュールの中で比較的丁寧にやられていると思う。ただやはりタイトなスケジュールがあるので苦しいと思う。このスケジュールは最短なスケジュールだと思う。建設の計画は準備含めて5000㎡だと24か月から26か月くらい開館までにかかる。かなりタイトなスケジュールであることは間違いない。

会長

今日説明を伺い、これ以降委員としてのご意見があれば、事務局あてにメールなどで提言いただく、あるいは市民説明会の席でご発言いただきたいと思います。

この議題についてはこれで終了したい。

本日の予定はすべて終了した。これで令和元年度協議第3回定例会を閉会する。